

新たに乳剤事業開始

昭和瀝青とセンター開所



乳剤タンクとディストリビューター

大成ロテックは、新たに乳剤事業を開始した。昭和瀝青工業（兵庫県姫路市、濱本博司社長）とのJVで「共同企業体東京乳剤センター」を大成ロテック城南島リサイクルセンター（東京都大田区城南島3-3-1）内に設置した。20日に開所式が開かれ、大成ロテックの西田義則社長、濱本社長など32人が参加した。

東京乳剤センターは、大成ロテックの旗艦合材工場である「東京青海合材工場」とのシナジー効果を発揮し、顧客からのアスファルト合材と乳剤のオーダー、サービスについてワンストップで対応する。また、昭和瀝青工業が約60年間培ってきた乳剤技術を生かした商品を販売する。さらに、都内に位置することで、日夜施工が行われている道路舗装工事に柔軟かつ迅速に対応でき、関東近郊（神奈川、千葉、埼玉、茨城）の道路舗装工事にも対応が可能

となる。事業は1日から開始している。

主要設備は、乳剤タンク（プライムコート、タックコート）50ト1基、改質乳剤タンク（ハイタックAS、QBタック）50ト1基、乳剤散布用車両のディストリビューター2台。同車両は、2024年4月から増車を予定している。



西田社長

開所式で、西田社長は「大成建設グループは創業150周年を迎えている。この記念すべき年に、当社にとって新たな事業である乳剤事業に挑めることは喜ばしく、関係者に感謝し上げる。所員が一人丸となって積極的に事業を展開し、社会に貢献していきたい」とあいさつした。

濱本社長は「乳剤はなくてはならないものであり、皆さんの協力、意見を糧にして、生まれたばかりのセンターを育てていきい」と述べた。